名瀬は言葉の樹を植える

名瀬　結論

注意事項

【小説タイトル】
名瀬は言葉の樹を植える

【Ｎコード】
Ｎ６１９４ＣＣ

【作者名】
名瀬　結論

【あらすじ】
文章を書く練習をかねて不定期で更新する覚書や日記のようなものです。
『炬燵の妖精さん』の真似になってしまいますが、まあ、一日一話縛りはなしです。自分に甘いので↑
（妖精さん、すみません）

つぶやき０　☆取扱説明書☆

――これはただのつぶやきです。誰に向けての言葉でもありません――

と、いうわけで、小説書く前に文章を書く練習をしようと思ったけどなにかきっかけがないと書かないよなこれ絶対って思ったので、ちょうどいいからあの『炬燵の妖精さん』ではないですが、なんか書いていこうと思います。毎日更新ではありません。気が向いたときに気が向いただけ書くつもりです。
内容についても決めておりません。そのとき、「あ、これいいかもしんね」っていうネタとか、日記とか、その他いろいろ……うん、いろいろ書きます。
一日に何話もこうしんしたり、一か月も更新されなかったり、いろいろあるかもしれません。
キーワードは『飽きない』。飽きて投げ出さないようにやっていきたいです。まあ、当面１００話を目指す方向で。
まあ、そんな感じでとりあえず一か月様子を見てみようかな……。
自由気ままに書かせていただきます。

つぶやき1　☆五月病☆（前書き）

勉強したくなーい！

つぶやき1　☆五月病☆

五月ももう中旬だ。前半にお金を使いまくった結果、かなり危険な域に達している。もはや私の懐は冬のシベリアのそれよりも寒い。とは言いすぎだな。一応あと半月は生きていける。

五月といえばやはり五月病だ。四月初頭のがんばろうムードが徐々に息切れを起こしてやるきナッシングな生活になっている。私も、明後日から定期テストだというのにもはや勉強時間どころか授業すらも聞いておらずノートもプリントも白紙状態である。

にもかかわらずこんな文章を書いているというなんとも可笑しい状態なのだが、こういった危機的状態では逆に謎の余裕が出てくるわけで、つかの間の楽園をエンジョイする気満々なのである。

例年であれば、こういったときはとりあえず机のまわりの片づけなどに気が向いてしまうはずなのだが今年に限ってはそれもなし。とりあえず街中で吹奏楽なんかのコンサートを聴いてきた。『音楽の街』と呼ばれるだけあって、週末にこういったコンサートが駅の北口前広場で行われている。去年は私も出たものだ。今年はどうった訳か、エントリーすらされていなかったが。とにかく、そんな余裕ができてしまうのだ。今回のテストを本気で捨てたわけではないが、半分あきらめているのも事実。ついでに言えば早く部活に行きたいと願っている。

高校生活も二年目に突入してしまった中、希望進路に向けて本腰を据えていかなければいけないのは理解しているのだが、そうはいっても目の前の誘惑や言い訳としての部活動に逃げてしまいがちだ。

それもこれも、目標を見失ってからの堕落が大きいと見える。『VR技術』から目を離してしまった以上、新たな目標を立てる必要性がある。情報系であれ理学系であれ、将来の夢を持つことで伸びると信じるしかない。大きな夢と、そこへつながる現実的な目標、

どちらも持たなければ私のモチベーションは続かない。時間はかかるだろうが確固たる夢を再度探さなければならない。

　勉強をするためには夢が必要であり、夢を見つけるためには勉強が必要なのである。

たとえ惰性であろうと下地となる勉強は必要だ。夢の探訪と地味な勉強、その二つを並行してやることで夢が現実に、勉強が武器へとなっていくのかもしれない。どちらにせよ、今は目の前のテストに集中すべきだ。そこから新たな発見があるかもしれない。きっかけはある。掬い上げられるかどうかは己にかかっている。まだ人生を捨てるべき時ではないのだ。

つぶやき2　☆定期テスト☆

定期テスト。人によっては楽しみだという場合もあるが、きっと大多数にとっては嫌なものだろう。

テストを受けること自体は嫌ではない。むしろ、部活がなくなり、授業もない。それが嬉しい人もいるだろう。しかし、親の重圧とテスト前に出される数多くの課題……

並みの進学校ならば周囲の意識の高さに焦りを覚えることもあるだろう。

テストに出る内容自体は授業をしっかり気いていれば満点をとるなど容易い。範囲は短いし、答えも既に与えられているのだ。しかし、満点をとるのは難しい。一瞬の思わぬ油断と事故——それは連日の寝不足や緊張感からおきる——によって栄光は消え去るのだ。それを考えもせず、教師や親は満点がとれて当然だと言う。『満点がとれて当然』というのは『サッカーのシュートが決まって当然』と言うのと同じだ。

そんな満点とれない言い訳をしてみたが、別に勉強を頑張っているわけではない。むしろ、いつもより……怠けているわけだ。

いわゆる『五月病』だが、ここまで拗らせていると、もう六月に入っても駄目になっているのではないかと心配になる。

心配できるうちが花で、自分自身を見放した、あるいは開き直った時点で人生が終わる。人生に良し悪しもないが、自分の思い描いた人生を歩みたいのならば今を大切にするべきだろう。とはいえ、欲望に流されやすい年頃、適度な休憩も必要かもしれない。体調管理も仕事だと思いながら勉強をサボる毎日である。

つぶやき3　☆文学？☆

Ｔｗｉｔｔｅｒでつれづれなるままにつぶやいていたことを適当にまとめてみました。
テーマは『人間の感情』と『文学というもの』という2つに分けたのでとりあえず、？は感情の方を主題に綴っていきたいと思います。
文書固めです。

最近、私は恋をしている。
相手は、まあ、部活の後輩だが、そこは大して重要じゃない。
今日、重要だと思った事は、『言葉』というものの重さだ。
人間という生き物は、専ら『言葉』や『文字』を使ってコミュニケーションをとっている。
しかし、私はよく、このコミュニケーション手段を使いたくないときが現れる。
冒頭に挙げた『恋心』がその例の一つだ。
よく、『愛しい』『恋しい』などと表されるが、本当にそれだけの言葉でその感情を表すことが出来るのだろうか。
これはもちろん、恋心に限った話ではない。普段の生活からして、この『言葉による取りこぼし』が存在している。
例えば、何か重大なミスを犯し、謝ったとする。しかし、『すみません』や『申し訳ございません』などと言った言葉では足りない場合がある。言葉が軽く思える。そこで、責任として、自傷行為、最悪の場合『自殺』という手段をとってしまう。
では、どうやったら少しでも『自分の感情』を発露できるのか。それを考えたとき、私が真っ先に思いついた物が『小説』である。

主人公の感情を『言葉』のみならず、『動作』『情景』など、本人だけでなく、世界全体を使って表現しているのだ。世界を動かすだけの力が、人間の感情にはある。

そんな感情を一言二言の言葉に収めてしまうという行為は人間を否定することに等しいだろう。

感情を『そのまま』伝える、それが人間の課題だと私は思う。言葉や動作、文書に頼ったコミュニケーションでは伝わらない、深い感情を感じ取る力を身につけることが必用である。

？は書く前に忘れそうです（；´Д｀）

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

　ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n6194cc/

名瀬は言葉の樹を植える

2014年8月9日02時22分発行